

a 学校教育目標	「自ら伸びる」児童の育成 ～わくわく登校、満足下校～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 夢や目標に向かって、自ら伸びようとする児童を育成する学校 【育成を目指す資質・能力】○知識及び技能 ○思考力・表現力 ○主体性
----------	-------------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価				改善方針		学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	評価	k結果と課題の分析	改善方針	評価					
					達成率	達成率				イ	ロ	ハ			
確かな学力の育成	主体的に学びあう児童を育成する。	○児童自らが目標や課題を設定して、その実現や解決に向け主体的に取り組む能力や意欲・態度を育成する。	児童質問紙肯定的評価の割合 ①「友達の考えと同じところや違うところを比べながら自分の考えを発表した。」 ②「図や表、数直線図などを使って、友達に伝えるように自分の考えを説明している。」 ③「友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり確信がもてたりした。」	80%	① 80.7% ② 85.8% ③ 96.5%		110%	A	①の「友達の考えと同じところや違うところを比べながら自分の考えを発表した。」の肯定的評価は80.7%、②の「図や表、数直線図などを使って、友達に伝えるように自分の考えを説明している。」は85.8%、③の「友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり確信がもてたりした。」は96.5%であった。全ての項目で目標を達成することができた。職員間で意識統一をして指導していることが、児童の習慣化につながっていると考える。	各学年でみると80%に満たない学年があるので全学年が80%以上になるように、以下のことに取り組む。 ⑦日々の授業から意識する。 ⑧教師の肯定的な受け止めや友達の考えを聞いてよくわかった、できたという達成感が得られるように教師の価値付けをより一層行う。	7			・思考を深めるため問い返し発問を研究しておられること、これからは児童の実態把握を行い児童が学び合うための力を付け思考力を付けてほしいと思う。また、日々の授業実践を大切にされること。期待しています。 ・子供の発達段階により自己評価が難しい学年もあると思います。(特に低学年)一部先生方の見取りで評価されても良いかと思いました。 ・先生方のチームワークの良さ丁寧な授業が結果につながったと思います。 ・授業が活性化していると感じられる。子供達の能動的参加が学力向上に向けても良い学びと聞かれました。 ・生徒自身が考えるようにどの学年も良く指導されていると感じました。 ・昨年度の研究をさらに深め、取組を充実させていると感じた。	
			○各種学力調査に向けた対策や、算数科の思考力・判断力・表現力のテストの分析を通して、学力の向上を図る。	①標準学力調査 全学級全国平均値以上(1～3年は+5P、4～6年は+3P) ②単元末テスト 思考力・判断力・表現力等 学年平均通過率 80%以上	① 1～3年 +5P 4～6年 +3P ② 80%以上	①未実施 ②50% 3/6学年	63%	C	①は令和6年1月実施予定。 ②については、1学期の算数科の思考力・判断力・表現力等の単元末テストの学年平均が80%以上の学年は、6学年中3学年(50%)だった。学校全体での平均通過率は80.4%だった。	児童の思考力・判断力・表現力をつけるために、以下のことに取り組む。 ⑦一人の児童も見落とさないように、しっかりと習熟を図ってから単元末テストに取り組む。 ⑧基礎学力の徹底を図り、モジュールの活用、前学年や前学期の内容等、繰り返し学習を丁寧にし、定着を図る。 ⑨授業の中で文章(活用)問題に取り組ませる機会を増やす。	7			・C評価ではありますが改善方針がしっかりしているの期待がもてます。 ・個の強さをしっかり把握して取り組んでほしい。 ・標準学力調査の目標達成に向けて取組の強化をお願いします。	
豊かな心・健やかな体の育成	○様々な人や事象との関わり合いを通して、豊かな人間性と健やかな体を培う。	○児童の基礎的生活習慣の確立を図り、自己肯定感を向上する。	○沼田西小学校『五つの宝』の取組や、自己有用感を育てる特別活動を充実させ、児童の自己肯定感、共感的な人間関係、規範意識を培う。	児童質問紙肯定的評価 (1)「自分のことが好き。」 (2)「自分には相談できる人や助けてくれる人がいる。」	90%	(1)78.3% (2)96.1% 平均 87.2%		96.8%	B	(1)(2)共に昨年度の数値よりは向上している。一方で、昨年度数値が低かった学年(現5年生)は(1)の項目が4月、7月共に46.2%と変化がなくクラスの半分以上が自己肯定感が低い現状にある。自分を他と比べて評価したり、成功体験が少なかったりしたことが要因の一つであると考えた。(2)については、1年生を除きどの学年も90%以上の児童が、肯定的回答をしている。今年度は、学び合いを研究していることもあり、休憩時間だけでなく授業の中でも友達と関わる機会が増えたことも要因であると考えた。	児童の自己肯定感を高めるために、以下の事に取り組む。 ⑦学級活動や道徳等で、自他の良さを見つけ合う活動・学習を仕組む。 ⑧学級平均ではなく、個に焦点を当て、自分を好きに出来ない要因を分析し取り組む。	7			・クラス替えがないためデメリットもあると思いますが、優しい子供達が育っていると思います。改善策をしっかりと出されたいように今後も取り組んでください。 ・中学校も同じ迷いがあります。協力して進められればと思います。 ・前任校では、パラリンピックの選手に来ていただいて講話と実技の時間を設けても良い学びとなりました。同様の機会があれば是非活用されてみてはいかがでしょうか。 ・自他の良さを見つけ合う活動を日常的にも取り入れ、また教師の肯定的評価など支持的風土のある学級集団作りをさらに進めてください。 ・「できた」「認められた」という経験でしか自己肯定感を生めない。 ・あいさつも良くでき、発表する時や前に出る時、椅子を直していたのは感じが良く立派でした。自分に自信がないと自分を好きになれないと思うので、音楽でも草花を育てることで体育でも自分が自信をもてるものを見つけるよう指導をお願いします。
		○友達や故郷を愛する心情を育てる。	○地域と連携し、地域の宝を生かした取組を推進し、郷土を愛する心や、地域の役に立ちたいという児童を育成する。	児童質問紙肯定的評価 (1)「沼田西町のためになることをやってみよう。」	90%	83.1%		92.3%	B	(1)は、アンケートをとってみると、児童も教職員も「どんなことをしたら沼田西町のためになるのか」が分かっていなかったり、共通認識ができていなかったりしているのではないかと考える。	地域への貢献を認識させるために、以下の事に取り組む。 ⑦生活科や総合的な学習の時間の中に地域学習では、相手意識や目的意識を明確にして取り組むようにする。 ⑧どんなことが沼田西町のためになるのかを、教職員と児童が共通認識をもつために、アンケートを実施したり学級活動で話し合ったりする。	7			・楽しく体を動かすように工夫された取組が①の結果につながったと思います。 ・楽しみながら体を動かす事ができる活動をどんどん企画実施されていて、子供達は楽しみにしていると感じた。 ・家庭の啓発をさらに進め、親子で楽しく運動出来たら体力向上につながると思う。 ・体力向上は必要なことではあるが、学校が全ての責任を持つ必要はない。家庭・地域の協力を求める項目をいれるべき。 ・基礎体力の向上にむけた取組の強化をお願いします。 ・体力向上の取組もいよいよ取り組まれています。来年度は50m走・立ち幅跳び・長座体前屈の1つにしてはどうでしょうか。 ・いろいろ工夫しながら体力面の向上に努められていると思います。これからは体を動かすことが好きな児童を増やしてください。
		○健康で活力ある生活を送るための基礎を培う。	○全校外遊びや授業でのACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)を励行するとともに、体育的な特別活動を工夫して行う。	①児童質問紙肯定的評価 (2)「体を動かすこと(運動)が好きである。」 ②肥満傾向にある児童数を8人以下	① 80% ② 100%	① 94.7% ② 53.3% 平均 85.8%		① 118.3% ② 53.3% 平均 85.8%		①「体を動かすこと(運動)が好きである。」の児童アンケート項目では、肯定的に評価した児童の割合は94.7%であり目標値である80%を上回った。毎月のロング屋休憩時に、体育委員会が主体となって縦割り班での「ハの字チャレンジ」に取り組んだり、毎月ののびのび朝会の際に、全校でACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)に取り組んだりしたことが要因だと考えられる。また、②について、9月の身体測定の結果、肥満傾向にある児童は14人で、目標に達しなかった。7月の身体測定の際には、4月の測定結果と比べて、肥満傾向にある児童が減少していたことから、夏季休業中の家庭での食生活や運動習慣が要因だと考えられる。	児童へ運動に慣れたり楽しみながら体を動かすことができるよう、以下の点に取り組む。 ⑦のびのび朝会におけるACP(アクティブチャイルドプログラム)の実施 上半期に引き続き、オンラインを通じて、全校でACP(アクティブチャイルドプログラム)を実施する。 ⑧ロング屋休憩における体を動かして遊ぶ活動の実施 体育委員会や児童会を主体として、全校や縦割り班で体を動かして遊ぶ活動を企画し、実施する。 ⑨家庭への啓発 学級懇談会や個人懇談会、または学級通信を通して、児童のよりよい生活習慣の確立に協力していただくことを目指す。	7			・楽しく体を動かすように工夫された取組が①の結果につながったと思います。 ・楽しみながら体を動かす事ができる活動をどんどん企画実施されていて、子供達は楽しみにしていると感じた。 ・家庭の啓発をさらに進め、親子で楽しく運動出来たら体力向上につながると思う。 ・体力向上は必要なことではあるが、学校が全ての責任を持つ必要はない。家庭・地域の協力を求める項目をいれるべき。 ・基礎体力の向上にむけた取組の強化をお願いします。 ・体力向上の取組もいよいよ取り組まれています。来年度は50m走・立ち幅跳び・長座体前屈の1つにしてはどうでしょうか。 ・いろいろ工夫しながら体力面の向上に努められていると思います。これからは体を動かすことが好きな児童を増やしてください。
信頼される学校	○保護者の願いに応え、信頼される学校づくりを推進する。	○意識向上を図り、自分事として考える研修の実施	不祥事0(ゼロ)	100%	100%		100%	A	どの項目においても、100%を達成した。	⑦業務の効率化に関わって、情報の共有と見通しをもった取組は欠かせないことから、引き続き業務内容の優先順位、ICT等を使用した視覚化・効率化などの視点から働き方改革を進めていく。 ⑧多様な業務を効率よく進めていくためには、職員のスキルアップが関わってくる。各部の主任層が経験年数の浅い職員へお手本を示したり、研修への積極的な参加を促したりしていく。	7			・不祥事を含め働き方等やほりお互いに声をかけあえる相談しやすい環境が大切だと思います。沼田西小学校の先生方良い雰囲気だからこれからも続くようにしてほしいです。 ・不祥事0や働き方改革の先生方の意識の高さが素晴らしい！ ・お互い声をかけ合い気付かすことができる職場だから仕事の効率も上がるのだと思った。 ・学校方針に基づいて、教職員の方が熱心に取り組んでおられる。 ・教職員の皆さんは心身の健康に留意してください。	
		○年間計画表を指標として、主任の機能化と部会の活性化を図り、PDCAサイクルにより協働的な学校運営を行う。	教職員自己評価肯定的評価 (1)「2部会などで自分に任された公務に積極的に取り組んだ。」	100%	100%		100%	A	・不祥事0を含め、働き方に対する教職員の意識も醸成されてきており、在校時間の縮減にもつながっている。 ・自分事として考える研修の取組が定着している。 ・各主任が自覚をもち、協働的な学校運営に取り組んでいる。	⑨日頃のストレスの有無、健康状態などお互いに声をかけあえる相談しやすい環境を整え、同僚性を育むことで、職員のと体の健康管理に充分注意していく。	7			・不祥事を含め働き方等やほりお互いに声をかけあえる相談しやすい環境が大切だと思います。沼田西小学校の先生方良い雰囲気だからこれからも続くようにしてほしいです。 ・不祥事0や働き方改革の先生方の意識の高さが素晴らしい！ ・お互い声をかけ合い気付かすことができる職場だから仕事の効率も上がるのだと思った。 ・学校方針に基づいて、教職員の方が熱心に取り組んでおられる。 ・教職員の皆さんは心身の健康に留意してください。	
		○組織的に業務改善を推進する。	時間外在校時間45時間以内の職員の割合	100%	100%		100%	A							

【: 自己評価 評価】
A: 100% (目標達成) B: 80% (ほぼ達成) < 100%
C: 60% (もう少し) < 80% D: (できていない) < 60%

【: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。
ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: 分からない。